

令和6年度 下野市立緑小学校グランドデザイン

国:生きる力の育成(確かな学力・豊かな心・健康体力)

栃木県教育振興計画2025
下地区学校教育の重点

下野市学校教育計画:「当たり前
前のことを、当たり前やろう！」



学校教育目標(目指す子どもの姿)

かしこく やさしく たくましく

—自ら考え、主体的に行動できる心豊かな子供の育成—

○学び合いよく考える子 ○明るく思いやりのある子 ○心身ともにたくましい子
スローガン:「**元気なあいさつ 輝くひとみ みんなが笑顔 みどりの子**」

目指す学校の姿 子どもが育ち、教職員が協働し、保護者や地域と連携する学校

スローガン:「**つながる 1人の10歩より10人の一歩**」

子供がわくわく学び みんなの笑顔があふれる 教育活動の実現を目指します

子どもたちに身につけさせたい4つの力

○夢を見つめる力

○自分を見つめる力

○仲間を見つめる力

○学びを見つめる力

学校経営の基本方針

- (1) 全ての教育活動は安心安全が大前提であり、全教職員が高い危機意識を共有し危機管理体制を確立する。
- (2) 児童一人一人の存在を大切に、それぞれに違いや良さがあることを前提として教育活動を推進する。(人権教育を基盤とし、特別支援教育の視点に立つ)
- (3) 教職員一人一人が資質・能力の向上に努め、授業力・学級経営力の育成を図る。
- (4) 組織の一員としての自覚を持ち、個性や持ち味を生かして学校経営に参画する。
- (5) 人との関わり合いを大切に、明るく、温かな雰囲気の醸成に努める。
- (6) 保護者や地域の理解を得ながら、連携した教育活動を推進し、地域とともにある学校づくりに努める。
- (7) 学校課題を中核とした研究を通して確かな学力の定着に努め、「自ら考え、主体的に行動できる心豊かな子供の育成」を目指す。

学校経営の努力点 (○は重点)

(1) 学ぶ力を育む学習指導	(2) 豊かな心を育む指導	(3) 健やかな体を育む指導	(4) 地域とともにある学校づくり
ア 目標と指導と評価の一体した授業の実践 ① 聴くことを重視した学習規律の確立と聴いて考えて表現する授業の実践 ウ デジタル教科書やタブレットを効果的に活用した授業作り エ 授業改善を図るための学校課題を核とした校内研修の推進 オ 授業とのつながりを意識できる家庭学習の習慣化 カ ブロックチーム制を核とした学年学級経営とブロック単位での教科担任制や学級学年間指導者交流の導入	ア 道徳科を要とした心の教育の充実 ① 一人一人を大切に自尊感情や所属感を高める学級経営 ② 学業指導を通じた積極的な児童指導の推進 ③ 児童の思いを大切にする学校行事の推進 ④ 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実 カ 読書活動の推進	ア 時間を守り自律した集団生活の推進 ① 外遊びの奨励と体力向上への取組 ウ 日常的な健康教育の推進 エ 教育相談の充実と自分や友だちの良さを実感し共有 オ 安全な学校給食と食育の推進 カ 事故の未然防止と危険回避能力の育成	ア 学校評価を生かした学校運営の改善 ① 教育活動の積極的な公開 ウ 小・小及び小中の連携強化 ② 保護者や地域の教育活動への理解促進と学校運営協議会やPTAとの効果的な連携

児童の実態 (全国学力学習状況調査・とちぎっ子学習状況調査の児童質問紙、学校評価(児童)結果より)

学校が楽しい 93.8% 授業が分かる 95.4%

自分の考えを持つ 86.3%
人の話を聞く 86.8%

自分の良さを見つける 86%
いじめはいけない 100%

困難に負けない 83.7%
健全な生活習慣 85.8%

あいさつをする 90.7%
安全に気をつける 96.9%

「やればできる」「自分なら頑張れる」という自己有用感を高めます。
子供たちの輝きや良さを見取り、認め、励まします。
子供たちが自分で考え、正しく判断し、良い行いができるよう毅然と指導します。
授業や学校行事の中で、関わり合いを大切に、小さな感動を重ねていきます。

目指す教職員の姿

- 愛情と熱意を持ち子供とともにある教職員
- 組織の中で自分を生かすことができる信頼される教職員
- 教育のプロとしての自覚を持ち学び続ける教職員

- ① 学校評価等による評価・改善 D→C→A→P
- ② 学力の「見える化」質問紙調査等平均88%以上
- ③ 職員による評価・改善
- ④ 保護者からの感想、地域の声
- ⑤ 学校運営協議会